

文芸ひろば

詠歌の紹介

千代田俳句同好会

花蓮ほつりほつりと日照り雨
万緑にかこまるる中暮らしをり
涼しさの滯ひ来たる絵画かな
夏落葉すみまで掃かれ忠魂碑
天空へ大手抜けて芭蕉の実

大西周
加藤貞江
熊沢鉄雄
神原清志
桜井愛子

紫陽花俳句会

青田風山黒黒と夕暮れて
湖風を纏いてうねる青田かな
青田波棚下たるや九十九折り
白南風や岬の馬のたてがみに

久保慶悦子
車田きみ
田能幸雄
萩原とし子

出島短歌会

供花にと芍薬あまた届ける立ち日忘れぬ友のやさしき
三人の娘残すためらいあったらうっ嫁の悲しき女の性は
満開の花のその日を忘るる程葉に葉重なる雨の葉桜
寄りゆけば馬も寄りくるくさむらの露を踏みつつ木の柵越しに

仲谷香代子
名倉親子
飯島ヒロエ
岡田恭子

投稿作品

猛暑続く日々には白芙蓉心を癒やす昼の休みに
山紫陽花むれ咲く京の嵐山幾星霜に想い馳せたり
入道雲雪の頂ミラターホルン
杖さすい忘れる爺の軽い尻
筑波嶺の友の拍手に迎えられ千登頂の思い果たせし
元気ですね等と言われる齢になり悔が先立つ人生行路
待つあひた扇子せわしく交差点

石塚清
沼野はつ子
宇津野野蛙
やまぐちさむ
中島良平
菅谷味子
扶美世

▶投稿作品(俳句・短歌・川柳)を募集しています。9月1日(金)までに情報広報課(〒300-0192 大和田562番地)へお願いします。
なお、応募多数な場合には掲載されない場合がありますのでご了承ください。



子どもミライ学習

市内の中学2年生は、子どもミライ学習の地域資源見学として市内13カ所で農水産物などの地域資源について学びました。

それぞれの見学先では、ベテランの生産者や事業者たちが専門的な話を分かりやすく生徒たちへ説明してくれました。生徒たちの質問へも丁寧に答えてくれるのがとても印象的でした。

生徒たちは、現地で学んだことを生かし、11月からワークショップ形式で新商品開発に挑みます。中学生の視点からどのような新商品が作り出されるか期待が膨らみます。

図 地方創生

地域資源見学

霞ヶ浦中学校

7月11日(金)実施

①旬のブルーベリーを実食してアイデアをイメージ中! ②ぶどうの育て方って知らないことばかり ③初めて見るいけすの鯉に興味津々!

下稲吉中学校

7月7日(金)・13日(金)実施

④漁港でベテラン漁師さんから漁の歴史を学びました ⑤ブルーベリーの食べごろを教えてくださいました ⑥涼しい蔵で多くのブルーベリー加工品を紹介してもらいました

見学先	説明者	地域資源	学校
株式会社ひのでや	佐賀正治氏	さつまいも	千代田中
さんろく果樹園	安田聖也氏	梨	下稲吉中
立花ブドウ園	立花栄伸氏	ぶどう	下稲吉中
外塚農園	外塚憲一氏	ぶどう	霞ヶ浦中
菅谷いちご園	菅谷利男氏	いちご	千代田中 下稲吉中
坂農苑	坂尚武氏	ブルーベリー	下稲吉中
手作り工房 カワ・ベリー	櫻井理恵氏	ブルーベリー	霞ヶ浦中
福田グリーン農園	福田秀世氏	ブルーベリー	霞ヶ浦中
霞ヶ浦ブルーベリー つみどり園	廣瀬貞子氏	ブルーベリー	下稲吉中
米山牧場	米山繁氏	酪農	下稲吉中
みやじま牧場	木村学氏	肥育牛	千代田中
櫻井鯉養魚場	櫻井謙治氏	養殖・漁業	霞ヶ浦中
崎浜船溜まり	今泉忠男氏 黒田榮氏	漁業	下稲吉中

千代田中学校

7月12日(金)実施

⑦迫力満点の肥育牛に圧倒されながら成長過程を学びました ⑧お芋スイーツの加工現場を見ながら試食も忘れていません ⑨いちごハウス見学の後はお話よりも試食に夢中!



かすみがうら市のジオ食

日本ジオパーク認定記念! 筑波山地域ジオパーク シリーズ ⑥



梨

関東地方は梨王国

梨の生産量は、千葉県が全国1位、次いで茨城、栃木という順番です(農林水産省平成28年度統計資料より)。地続きの地域といえますが、それは偶然でなく、この地が気候・風土・地質が類似し、梨の栽培に適しているからです。

茨城は梨づくりに適した土地柄

梨の栽培には、地深で適度な保水性、排水性と肥沃な土地、通気性などが求められ、茨城県域はまさに梨づくりに適した土地柄といえます。7月上旬からハウス梨(幸水)を皮切りに、豊水(甘味の中に適度な酸味がある)、あきづき(新高×豊水)に「幸水」を掛け合わせたもので、酸味が少なめ)、恵水(大玉で甘みが強い新品種)、新高(日持ちする大玉梨、にっこり)(新高×豊水)と品種を変えながら10月末まで楽しめる果物です。

千代田の梨づくりの歴史

千代田の梨は、明治17年(1884)頃に下土田の山口徳松が始め、明治35年(1902)には下志筑地区や栗田地区にも広まってきました。県内では、旧関城町などの県西地区でいち早く始まった梨栽培ですが、千代田の梨は六号国道に展開する観光果樹が盛んになるにつれて茨城を代表する梨栽培地域となりました。

夏に適した梨の栄養成分と効能

梅雨が明けて夏日、猛暑日を記録する頃、梨の収穫が始まるのですが、この時期に梨を食べるのが体に良いとされています。アミノ酸の一つであるアスパラギン酸が夏バテの疲労回復に、プロテアーゼがタンパク質を分解し消化を助け、汗と共に排出されるカリウムが補給でき高血圧を防ぐなど、梨は夏にさまざまな効能をもたらす食材といえます。皆さんもおいしいかすみがうら市の梨を食べて夏を乗り切りましょう。



かすみがうら市の梨

東京の中央卸売市場1位のシェアを誇る茨城梨

46億年の地球の歴史を経て、つくり上げられた茨城、そしてかすみがうら市の大地。何気なく栽培されているようにみえる梨にも、この地域の大地の特性を利用して栽培されていることが分かります。茨城梨の生産量は、全国2位ですが市場出荷に目を向けると東京の中央卸売市場のシェアは全国1位です。この夏、梨をたくさん食べて、故郷の大地の恵みの豊かさを実感してみたいかがでしょうか。(桂木 郁夫)

歴史博物館 029(866)0017